盛夏の蝶２種の雨天～曇天時の生態
～ゴマシジミ・ベニヒカゲ～

吉富章雄

現在まで，蝶の雨天時，荒天時の観察記録は，図鑑や文献などにもあまり報告されておらず，ゼフィルスなどで少々見掛ける程度である．筆者は，1983年８月に盛夏を代表する蝶２種の荒天時の行動を目撃したので，晴天時と比較して報告する．種名，年月日，地名，天候，標高は次のとおり．

ゴマシジミ

1983.8.09	山梨県韮崎市穴山町穴山	快晴	550m
1983.8.15	山梨県塩山市裂石中子沢	雨（台風５号）	750m
1983.8.15	山梨県東山梨郡三富村徳和	雨（台風５号）	800m

ベニヒカゲ

1983.8.23	新潟県南魚沼郡湯沢町三国山	曇（霧）	1500m
1983.8.29	長野県南佐久郡海ノ口杣添	快晴	1700m
1983.8.29	山梨県北巨摩郡高根町美森	快晴（風やや強）	1850m

以下，種ごとに述べてみたい．

〔ゴマシジミ〕

ゴマシジミは，炎天下でフワフワと飛ぶことが一般的に知られているが，雨天時の飛翔についてはほとんど知られていない．８月９日の穴山では現在までの報告どおり，炎天下でハギやワレモコウでの吸蜜，フワフワとした飛翔が目撃できた．さて８月15日の雨天時の観察であるが，この日はおりからの台風５号のため東京地方は未明から嵐模様であったが，笹子峠を越えての天候の回復を期待して採集に出掛けた．中央道の笹子トンネルを抜けると，期待どおりに雨は時折パラつく程度にもちなおした（勝沼・塩山～韮崎は雨量が常に少なく，ブドウの好産地として有名）．ゴマシジミの既知産地である裂石へ到着したときは，時折激しく雨が降ったりやんだりという，採集はとてもできないような天候になり，はたしてゴマシジミを見ることができるかどうかも心配された．しかし小雨の降りしきるなか，棚田の斜面のワレモコウにて吸蜜中の１個体を発見した．青色の発達

の弱い黒っぽい個体で雌雄は判別できかねた．採集すべく近づくと意外にも敏感で，すぐに飛び立ち近くのワレモコウに移った．これにも近づこうと試みたが，今度は低いところをかなりの速度で飛び去った．天気のよい日のフワフワとした飛び方からは想像もつかないようなスピードであった．この直後に，もう１頭，青色の発達した個体が草地の上を速く飛び去るのを目撃した．この時点ではまだ「たまたま，速く飛ぶのもいるのだな」ぐらいにしか思わなかった．この後，塩山を出発し，三富村へ向かい，徳和で生息していそうな場所を捜して歩いた．この頃も小雨がひっきりなしに降っていた．墓地の前部，横斜面にてワレモコウを見つけブッシュをたたいたところ，黒い個体のゴマシジミが飛び出したが，これも相当速くブッシュの上すれすれを飛び去った．このときになって雨天時の飛翔はかなりのスピードだということがわかったが，まだ晴天時の印象が強く半信半疑であった．この後（午後４時頃）時間にして10分ほどであるが，時々雨がやむようになってきた．やみ間にブッシュの上約５cmを飛翔中の１♀を採集した．青色鱗粉の発達の悪いタイプであった．

結論として，雨天時には，晴天時からは信じられないようなスピードで障害物（ブッシュなど）の上をすれすれに飛ぶことがわかった．そして，雨天時にも意外と吸蜜をしているという事実も判明した．また，ゴマシジミのほかにシータテハやキアゲハなどを目撃したが，飛翔については晴天時と何ら変化がなかった．

〔ベニヒカゲ〕

この蝶もゴマシジミ同様，フワフワとゆっくり飛翔することが知られており，ヒメヒカゲとベニヒカゲの２種が標準和名を間違えてつけられているといわれるように，ヒカゲ（日陰）ではなくヒナタ（日向）を飛ぶ蝶である（さしずめヒメヒナタ，ベニヒナタか）．さて，８月29日の八ケ岳山麓柚添での観察であるが，別荘地の草地，道路上を相当数の個体がフワフワと飛んでおり，♀の裏面の黄色い個体を採集してまわった．白いタイプとの比はおおよそ白：黄＝２：１ぐらいのであったが，実際にはもう少し白いタイプの方が多いかもしれない．飛翔，吸蜜とも一般的にいわれるベニヒカゲのものであった．その他気がついたこととしては，いずれも低く飛ぶということで，高く舞い上がる個体は見られなかった．その後，同じく八ケ岳山麓の美森～県界尾根間の草地斜面へと入った．この頃より風が少し強くなり，風に乗り斜面を速くすべり降りるように大きく飛ぶ個体も

見られた．強い風のなかでも，しっかりと花につかまり吸蜜している個体も多く見られ，風は吸蜜行動にはあまり影響しないものと推測できる．ここの♀は白：黄＝３：１ぐらいの割合と思われるが，生態については何ら特筆すべきことはなかった．さて，悪天時の観察であるが，１週間ほどさかのぼり８月23日，新潟・群馬県境の三国山でのことである（従来，三国峠産といわれる個体は，正確には三国山産で峠付近には産しない．標高は峠が約1250m．ベニヒカゲが見られるのは標高1500m以上のお花畑）．三国山のベニヒカゲは一般的に大きく，赤色部の発達は八ケ岳産に比べるとやや弱い．当日は曇りで峠付近までは晴れていたが，高度を上げ時間がたつにしたがって雲量が増え，採集を始める頃には風がやや強く，まったくの曇天になってしまった．それでも，食草のノガリヤスをネットでたたくと，時々飛び出す個体が見られた．このときのスピードはベニヒカゲとは思えないほど速く，草地上をすれすれに素早く飛び食草中に舞い降りた．そしてすぐに食草の根元に歩いて降り，翅をたたんでじっと止まっていた．採集にはピンセットが１本あれば充分であったが，草にもぐりこむのが素早いため，降りたところを正確につかまないと捜しきれない．ガスが出はじめ採集と観察を断念したが，晴天時とは明らかに違う飛翔を見た．

ゴマシジミ，ベニヒカゲの２種ともにいえることは，悪天時にも時には飛翔し，普段のスピードからは考えられないような速さで，低く障害物すれすれの高さを飛ぶということである（２種とも，もともと高く飛ぶ蝶ではないが）．そして，ある程度の悪天でも吸蜜行動が見られることである．

各地点での温度が不明であったのが残念であり，今後温度の面からも生態を考えてみたいと思う．また，悪天時は各種１度ずつの観察なので，もう少し観察例を多くするのが今後の課題であろう．採集もしくは生態観察のサゼスチョンになれば幸いと思い，報告する次第である．